

## 日本初の公許女医第一号「荻野吟子」

秦公民館長 船田昭介

今から百二十年前、一人の女性がつけた一本道、その道は日本で初めての女性医師への道。また、婦人解放の先覚者として栄光と波乱の生涯を閉じた荻野吟子の道。

いま、その道を辿ってみた。

江戸時代末期の嘉永四年（1851）三月三日武蔵国幡羅郡俵瀬村（旧妻沼町）に荻野吟子は生まれた。

十八歳で結婚するが、不慮の病に侵され二年後に離婚。この治療の際の屈辱的な体験により、女医の必要性を痛感し医師となることを決意する。

当時、女性には医師の道は閉ざされていたが、数々の困難を克服し、明治十八年（1885）医師開業試験に合格、日本公許女医第一号となり、三十五歳で東京の本郷湯島に開業する。

その後、キリスト教活動で知り合った宗方之善と再婚。理想郷建設を夢見て北海道に渡った夫を追い、インマヌエル（現今金町）に開拓入植するが、失敗に終わる。

同三十年、現在のせたな町会津本町に医院を開業、医療・婦人解放運動等に活躍する。八年後、夫之善が四十二歳で死去したため、せたな町から東京に戻り、医院を開業。大正二年（1913）六月二十三日、六十二歳で永眠する。

荻野吟子女史、その愛と不屈の根性、そしてその波乱に富んだ生涯が、小説・テレビ・舞台で広く世に紹介されています。



（熊谷市公連だより 第2号 平成19年より）